

対馬釜山事務所だよ

2月は卒業シーズン

突然届いた友達からの春の絵葉書みたいに、風の中にかすかに春の香りがします。韓国には、「山の向こうに誰かが住んでいるので、毎年春風は南から吹いてくる」という詩があります。釜山から南と言えば日本、中でも対馬が最も近いので、春は対馬から来るともいえますね。

本格的な春をすぐそこに控えている2月は、韓国では卒業シーズンです。2月中旬を越えると小学校から大学まで卒業式が行われます。一般的なその光景は、学校の運動場や講堂に学生全員が集まるのが卒業式のはじまり。式順はまず、校長先生からのお言葉、来賓のお言葉、そして、卒業生への卒業証書や賞状の授与。卒業式のクライマックスは、後輩の在学生代表からの送辞、卒業生代表からの答辞を読むところです。学校を離れる寂しさに普通でも悲しくなっている卒業生に加え、新しく歩み出る先輩に対し後輩が送辞を読み上げながらぼろぼろと落とす涙の粒が相乗効果をもたらし、「卒業の歌」を歌う場面では涙の卒業式になっちゃうものです。

みんなを泣かせる韓国の「卒業の歌」紹介

先生も、卒業生も、在学生も、保護者をも泣かせる「卒業の歌」。その歌詞を紹介します。後輩が歌う…「輝かしい卒業証書を手にとった先輩達に、花束を沢山差し上げます。譲り受けた本で勉強し、私たちは先輩の後を継ぎます」卒業生が歌う…「さよなら、後輩よ。懐かしい教室よ。先生、私たちは退きます。一生懸命もっと学び大きくなり、新しい国の新しい人材になります」皆で…「前から引っ張り、後ろから押されながら、わが国を背負って行く私達。小川が海で出会うように、私たちもまた今度会おうね」

しかし、時代の移り変わりとともに卒業式の風景も変わりつつあります。最近はこのような形式にとらわれない卒業式が続々と生みだされているそうです。例えば、先生や来賓からの祝賀メッセージを動画で見せたり、後輩が演劇を見せたり、楽器演奏をしたり、舞台上先生や保護者にお辞儀をしたり、卒業生の夢を書いた手紙のタイムカプセルを埋めたり。

卒業式のつきもの「ジャジャ麺」

今の30代以上の大人に卒業式のつきものは何かと聞くと、殆どが「ジャジャ麺」と答えます。卒業式が終わると家族皆で中華屋に行って必ず食べたメニュー「ジャジャ麺」は、きし麺にカレーの黒バージョンをかけた様な料理と言えます。

卒業式の変化に伴い、式が終わってからの家族での外食メニューも変わってきたのは当然かも知れません。最近の子供はファミリーレストランでステーキやスパゲティ、またはハンバーグを食べたがるそうです。卒業式は終わりではなく、新たな始まりを意味します。対馬からもこの2月卒業した人がいます。釜山留学第一号「桐谷康樹」君。卒業おめでとうございます。社会人としての新しい門出、すばらしいことが多くありますようお願い致します。



対馬釜山事務所 **キム 金** **キョンイル 京一** **シン 辛** **ウン キョン 恩京**

詳しくは裁判所ウェブサイト (<http://www.courts.go.jp/>) をご覧下さい。

刑事裁判では、被告人が日本語を理解できない場合、法廷でのやり取りを通訳する人（通訳人）を付けることになっていきます。通訳人は、通訳を必要とする事件ごとに、通訳人候補者の中から選ばれ、被告人の権利を保障し、適正な裁判を実現する上で重要な役割を果たしています。裁判所では広く通訳人候補者を募集しています。通訳人候補者となるためには、面接などを経たず、通訳人候補者として名簿に登録されることになります。必要な研修も行っていますので、刑事裁判の知識に自信のない方でも、ご心配はいりません。



裁判所からのお知らせ
法廷通訳って何？